

展示

EXHIBITION

季節ごとに展示替えを行う年代に沿って詩画作品や収蔵している貴重な資料を展示するほか、美術館独自の視点で据えたテーマでの企画展や特集展示も行います。作品誕生から現在に至るまでの軌跡を辿りながら、詩画作家星野富弘の世界を紹介します。



館内ショップ

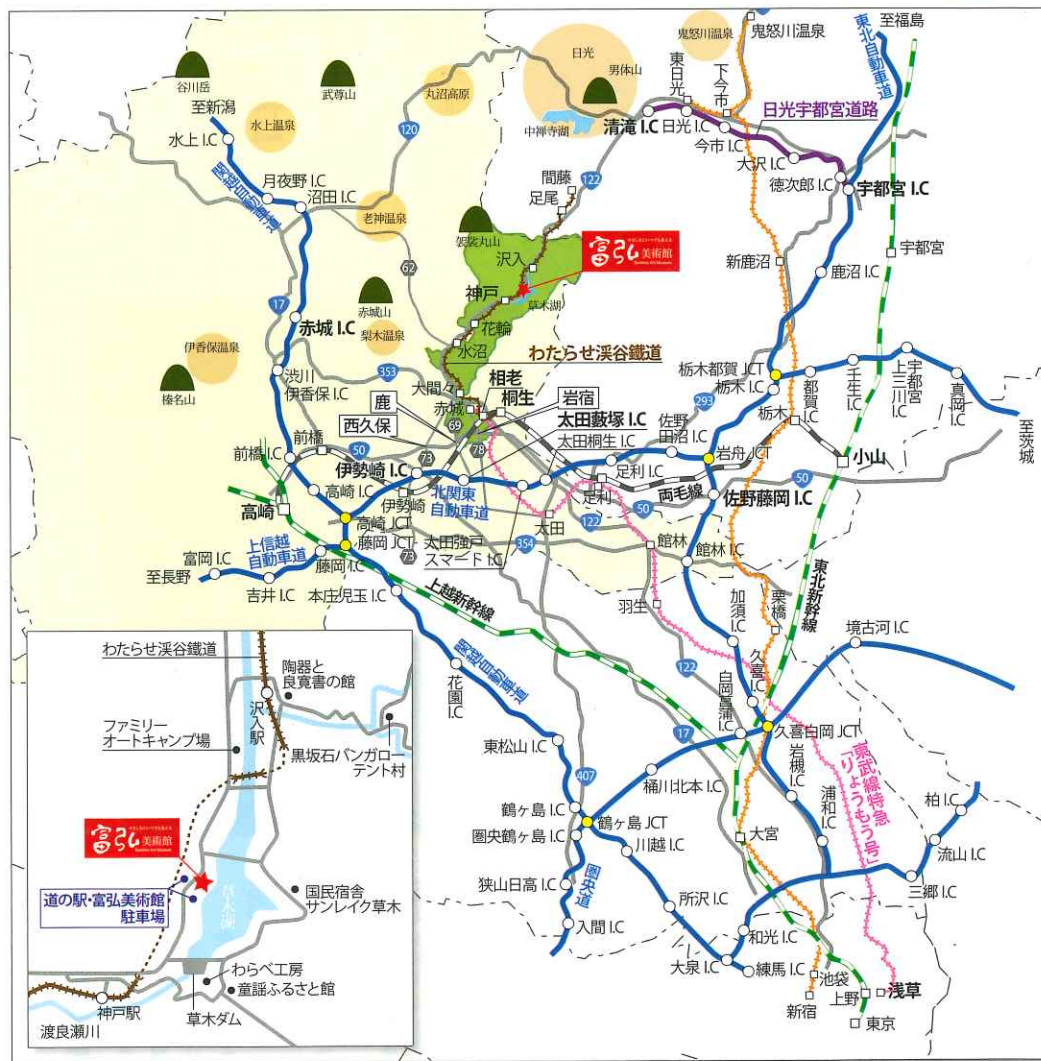
MUSEUM SHOP

オリジナル商品も多数取り揃えています。



美術館周辺

PERIPHERY



入館料

大人500円620/7 小中学生300円310/9
 幼児無料 団体20名以上2割引

障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名5割引

※二重割引はいたしていませんのでご了承ください。
 ※特別展の場合は、特別料金となることがあります。
 ※館内での写真撮影、喫煙、飲食(カフェ除く)はできません。
 ☆20名様以上の団体の方は事前に電話等でご連絡ください。

開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日

12月～3月までの月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は火曜日)
 12月26日～1月4日
 ※展示替えのため、臨時休館することがあります。

【周辺の宿泊施設ほか】 ()内は最寄りの駅

| | |
|------------------|--------------|
| 国民宿舎サンレイク草木(神戸) | 0277-95-6309 |
| 民宿沢屋(神戸) | 0277-97-2206 |
| 東陽館(小中) | 0277-97-2840 |
| 草木ドライブイン[食事](神戸) | 0277-95-6136 |

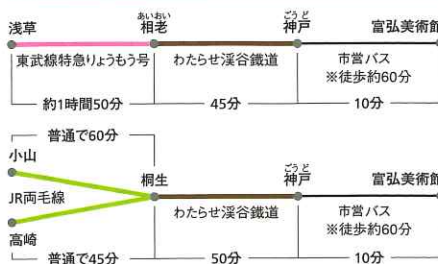
【周辺の観光場所ほか】

| | |
|---------------------|--------------|
| 童謡ふるさと館(みどり市) | 0277-97-3008 |
| 陶器と良寛書の館(みどり市) | 0277-95-6565 |
| わらべ工房(みどり市) | 0277-97-2581 |
| おおま小平の里鍾乳洞(みどり市) | 0277-73-2006 |
| 大間々博物館 コノドント館(みどり市) | 0277-73-4123 |
| 岩宿博物館(みどり市) | 0277-76-1701 |
| 水沼温泉センター(桐生市) | 0277-96-2500 |
| 県立ぐんま昆虫の森(桐生市) | 0277-74-6441 |
| 桐生観光協会(桐生市) | 0288-22-1525 |
| 日光市観光協会(日光市) | 0288-54-2496 |
| わたらせ渓谷鐵道(交通機関) | 0277-73-2110 |

【お問い合わせ先】

みどり市観光課 Tel.0277-76-1270
 みどり市ホームページ <http://www.city.midori.gunma.jp>

電車



お車で



富弘 美術館

やさしさにいつでも逢える

Tomihiro Art Museum

美しい山々と湖、豊かな緑につつまれた小さな美術館。
透明感あふれる水彩で描かれた草花と、宝石のような言葉に、出会いにきてください。



不慮の事故による長い入院生活から、
ふるさとに帰った星野を迎えてくれた
自然。子どもの頃から眺めてきた山々
や川の流れ、そして四季折々に咲く野
の草花は、絶望の淵に立ち尽くした彼
を生きる道へと導いてくれました。
その自然を描いた数々の詩画作品は、
見る人に「生きることのすばらしさ」
「生きる勇気」を与えてくれます。



星野富弘と富弘美術館

- 1946 群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。
- 1970 群馬大学教育学部保健体育科卒業。
中学校の教諭になるがクラブ活動の指導中頸髄を
損傷、手足の自由を失う。
- 1972 病院に入院中、口に筆をくわえて文や絵をかき始
める。
- 1979 前橋で最初の作品展を開く。
退院。
- 1981 結婚。雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイを連載。
- 1982 高崎で「花の詩画展」。
以後、全国各地で開かれた「花の詩画展」は、
大きな感動を呼ぶ。

- 1991 群馬県勢多郡東村に村立富弘美術館開館。
- 1994 ニューヨークで「花の詩画展」。
- 1997 ホノルルで「花の詩画展」。
- 2000 ホノルルで「花の詩画展」。
- 2001 サンフランシスコ、ロサンゼルスで「花の詩画展」。
- 2003 ワルシャワ国立博物館で「花の詩画展」。
- 2005 新富弘美術館開館。
- 2006 笠懸町・大間々町・勢多郡東村の合併により、
みどり市立の富弘美術館となる。
群馬県名誉市民の称号を贈られる。
- 2011 群馬大学特別栄誉賞（第一回）受賞。
- 2014 富弘美術館入館者650万人。
- 2016 富弘美術館開館25周年。
現在も詩画や随筆の創作を続けながら、全国で
「花の詩画展」を開いている。

主な著書に「愛、深き淵より。」(学研プラス)、「かぎりなくや
さしい花々」(偕成社)、「鈴の鳴る道」(偕成社)、「速さのち
がう時計」(偕成社)、「銀色のあしあと」(いのちのことは社)、
「あなたの手のひら」(偕成社)、「花よりも小さく」(偕成社)、
「たった一度の人生だから」(いのちのことは社)、「星野富
弘ことばの雫」(いのちのことは社)、「新編 風の旅」(学研プ
ラス)、「種蒔きもせず」(偕成社)、「風の詩」(学研プラス)、
「ありがとう私のいのち」(学研プラス)、「山の向こうの美
術館」、「いのちより大切なもの」(学研プラス)、「あの時か
ら空がかわった」(いのちのことは社)、「足で歩いた頃のこ
と」(偕成社)等がある。